



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター 平成25年度 年 報



雷別ドングリ倶楽部（9月18日）



雷別ドングリ倶楽部（11月20日）



森林教室支援（10月29日）



森林活動支援（9月26日）

この1年を振り返って

釧路湿原自然再生全体構想が策定されて来年3月で10年になります。その間、様々な事業実施計画が策定され、釧路湿原の自然再生の各種事業が行われてきました。過日2月10日に開催された釧路湿原自然再生協議会で各行政機関からこの1年間に行われた事業内容が報告されました。その中で、事業の効果を示した事例がいくつか紹介されましたが、広大で多様な土地に適用するためには今後さらなる実証試験を積み重ねる必要があるものと思われ、一度壊された自然を再生することの難しさを痛感すると同時に、これまで多くのお金と時間を費やして取り組んできた10年間の結果を無駄にすることがないように、次の10年間においては、より具体的かつ効果的な再生手法を確立して行かなければならないと感じた次第です。

翻って、当センターが実施している雷別地区自然再生事業について言えば、主にエゾシカによる植栽木の食害が著しく、今後、食害について抜本的な対策を講じたうえで事業を進めていく必要に迫られています。これまで多くのボランティアの皆様のご協力を頂き植樹を進めて参りましたが、その善意が無に帰することがないように、改善すべき点は改善し、必要な技術を有している所には官・民を問わず門を叩いて教えを願い前進していく所存です。（所長 網倉 和弘）

目次

この1年を振り返って

- 1 トピック（雷別地区自然再生事業の現状と課題）
- 2 この1年間の取組み
【取組みの経過－8頁】【自然再生・生物多様性の保全－9頁】
【森林環境教育－11頁】【NPO等・その他の取組み－13頁】
- 3 活動区域及び所在地

1 トピック（雷別地区自然再生事業の現状と課題）

平成25年12月12日に開催された「釧路湿原自然再生協議会森林再生小委員会」（以下「森林再生小委員会」と記します。）では、「雷別地区自然再生事業実施計画」（以下「実施計画」と記します。）が策定後5年間経過したのを契機として、これまでの事業の実施上の問題点の抽出と対策、モニタリングの実施結果、補植計画等について報告をしました。これに対して、学識経験者を含む各委員から多くの意見を頂きました。

森林再生小委員会は公開により開催することとしておりますが、傍聴できなかった方もいると思いますので、本稿では、改めて実施計画の概要について触れるとともに、森林再生小委員会に報告した主な内容と各委員から頂いた意見について紹介することとします。

1 実施計画の概要

① 自然再生事業の実施箇所

標茶町雷別地区国有林293林班外。いわゆる釧路湿原東部3湖沼の1つ、シラルトロ沼に注ぐシラルトロエトロ川の源流部に当たる。



② 自然再生事業の目的

平成12年、293林班及びその周辺では、冬季の土壤凍結で根から吸水できない状態で蒸散が発生したため、水分通導機能が障害を起こし（丸山ほか、2002）、70年生を超えるトドマツが大量に枯損し、これを処理した結果、樹冠が疎や無立木のササ地が発生した。この箇所で森林の機能評価を行ったところ、水土保全機能が低い結果となり、釧路湿原への影響が懸念されたことから、この地区周辺の種子を採取して苗木を育成し、これを植栽して自然再生を行うこととした。

（枯損木処理後の雷別地区国有林293林班）



③ 再生の手法

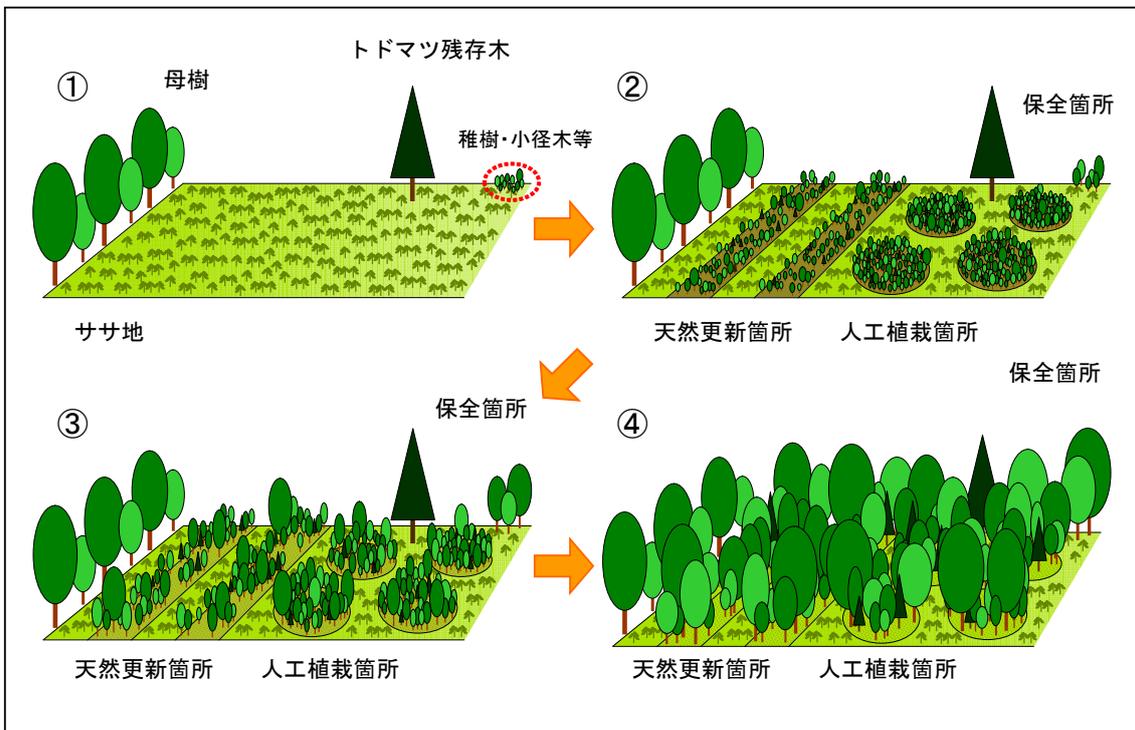
森林の再生に当たり、事業地を下表の3区域に仕分け、各区域ごとに異なる再生手法を採ることとした。

(各区域の仕分けの基準と再生方法)

| 区域名 | 仕分けの基準 | 再生方法 |
|--------|------------------------------|-----------------------------|
| 保全区域 | 広葉樹の稚樹や小径木がまとまって生育している箇所 | そのまま保全 |
| 天然更新区域 | 20m以内に種子を落下させる母樹を3本以上確保できる箇所 | 地がき(ササの根系まで剥ぐこと)を行い、天然更新を促進 |
| 人工植栽区域 | 広葉樹の稚樹や小径木がなく、母樹が少ない箇所 | 雷別地区で種子を採取し、苗木を育成して人工植栽 |

④ 再生の推移のイメージ

保全、天然更新及び人工更新の各区域を組み合わせると下の図のとおり森林を再生させることをイメージしている。



⑤ 年次計画

森林再生のための各種事業を次のとおり計画。

| 区分 | 項目 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | |
|--------|------|-------------|-------------|-----|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|--|
| 森林再生事業 | 苗木育成 | | [Green bar] | | | | | | | | |
| | 地がき | | [Green bar] | | | | | | | | |
| | 人工植栽 | | | | | [Green bar] | | | | | |
| 試行実験 | | [Green bar] | | | | | | | | | |

⑥ モニタリングの実施

森林の再生状況と森林再生に伴う自然環境及び水土保持機能の変化を評価するため、次の項目について調査を実施。

(モニタリングの評価の内容、調査項目、調査頻度等)

| 評価の対象 | 評価の内容 | 調査項目 | 調査頻度等 | 調査箇所 |
|-------------------|-----------|---|---------|------------------------|
| 森林の変化 | 森林の生長、遷移 | 樹種・本数・樹高・構造 | 5年程度の間隔 | 20m四方の固定プロットを設定予定 |
| 森林の再生に伴う環境の変化 | 植生の変化 | 植物相、被度 | 5年程度 | 上記固定プロット内に設定 |
| | 地表性甲虫の変化 | 地表性甲虫の種、数 | 5年程度 | 平成19年度以降に箇所設定のための調査を行う |
| | 鳥類の変化 | 繁殖期の鳥類の種、数 | 5年程度 | |
| 森林の再生に伴う水土保持機能の変化 | 水土保持機能の変化 | 渇水・洪水緩和機能 水質保全機能 土砂流出防止機能 土砂崩壊防止機能 | 20年程度 | 293林班を含む8個林班の国有林 |

注：評価は、地表性甲虫については森林性の地表性甲虫の種組成、鳥類については繁殖期の鳥類の種組成で行うことを想定している。平成19年度以降に調査箇所の設定のための調査を行う。

2 事業実施上の問題点の抽出と対策

① 極めて少ない苗木育成本数

実施計画では、苗木の育成目標（山出しの目安）は、平成25年度までに9,400本としていたが、山出しした本数は150本にとどまった。

理由 苗木育成技術及び苗木育成設備の不足。冬場の苗木管理の不手際。

対策 購入苗を主とし、自前による苗木育成は補助的な扱いとする。

(苗木の育成目標と実績)

| | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|
| 育成目標 | | | | 2,200 | 2,400 | 2,400 | 2,400 | 9,400 |
| 育成実績 | | | | | 100 | | 50 | 150 |

② 人工植栽の遅れ

人工植栽は、平成26年度まで終了させる予定であったが、事業地に笹地1～14までの番号を付したうち、平成25年度までに植栽を終えた箇所は笹地10～14までにとどまっている。

理由 極めて少ない苗木育成本数。（購入苗で対応したが）植樹ボランティアの不足。

対策 購入苗による人工植栽の請負発注。

③ エロージョンの発生

エロージョン（表土の流出）は、地表処理（「地ごしらえ」（人工植栽前の植栽地の整理）及び「地がき」（天然更新を促進させるためのササの除去）。本事業地ではいずれもササの根系まで剥いだ。）を行った全86区画のうち、小規模のものを含めて39区画で観察され、急傾斜地では苗木が流されている状況であった。

理由 土壌を十分に調べずに根系まで剥いだため、粘性の乏しい土壌層が表れ、隣接するササ地から流れ込んだ表流水により表土が流失した。

対策 植生、特にササの侵入により表土が安定していく様子が観察されたので、植生が侵入し、表土が安定するのを待って補植を実施する。

(表土とともに流された急傾斜地の苗木)



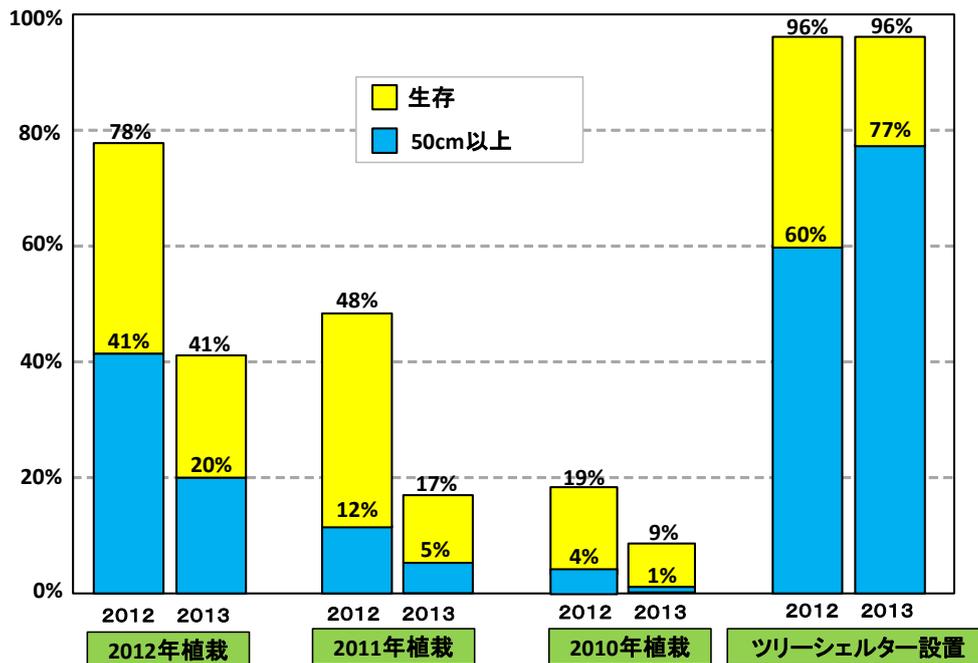
④ エゾシカによる激しい食害と枯損

平成22年6月から平成24年5月までに植栽された2,850本について、平成25年10月に生存率を調査した結果、平均生存率は13%となった。植栽木は植栽時期が古いものほど枯損率が高く、ツリーシェルター（シカ食害防止用の筒）を設置したものの枯損率は僅か4%であった。このことから、枯損の主な原因はエゾシカによる食害と推定された。

理由 エゾシカライトセンサスの結果、エゾシカの生息密度が20~100頭/10kmの中密度の範囲にあり、直ちに対策を講ずる必要が無いと判断したこと。

対策 防鹿柵を設置のうえ補植を実施。

(植栽木の生存率)



注1:「2012」及び「2013」は調査年を表す。

注2:「2012植栽」、「2011植栽」及び「2010植栽」の生存率にツリーシェルター設置木は含まれない。

⑤ 天然更新の不成績

天然更新箇所は、20m以内に母樹が3本以上確保できる箇所を条件として、平成19年度に笹地10~13において更新を促進するための地がきを行った。地がき箇所における30cm以上の高木性広葉樹の発生状況を次頁に掲げるが、非先駆性樹種（ヤチダモ、ハルニレ、ミズナラ、キハダ、ハリギリなど）及び先駆性樹種（ケヤマハンノキ、カンバ類、ヤナギ類など、樹木がまだ生えていない土地に真っ先に生えてくる性質の樹種）のha当たりの発生本数は合わせて462本（平成25年度調査）で、1㎡当たり僅かに0.0462本に過ぎなかった。事業地以外の雷別地区の土場跡を見ると、周囲が森林に囲まれている場合、先駆性樹種を中心にしばしば密生してい

る状況が観察されることから、母樹の密度が少ないことが原因と推定された。なお、笹地内に立っている母樹は事業開始後に風倒により数を減らしており、天然更新区域に設定後、条件を満たさなくなった箇所が多くなってきている。

理由 母樹の密度が少ないものと推定。

対策 天然更新は不成績に終わったものと判断し、天然更新を促すために地がきした箇所での植込みを実施。今後、天然更新区域の設定に当たっては、条件を厳しくし、10m以内に母樹が3本以上確保できる箇所とする。

(タイプ別の天然生稚樹の発生状況)

| タイプ | 2012(H24)年 | | | 2013(H25)年 | | |
|-------|------------|-------|-----|------------|-------|-----|
| | 30cm～ | 50cm～ | 総数 | 30cm～ | 50cm～ | 総数 |
| 母樹 | 2 | 0 | 2 | 8 | 3 | 11 |
| 先駆 | 127 | 33 | 160 | 164 | 281 | 445 |
| 計 | 129 | 33 | 162 | 172 | 284 | 456 |
| ha当たり | 131 | 33 | 164 | 174 | 287 | 462 |

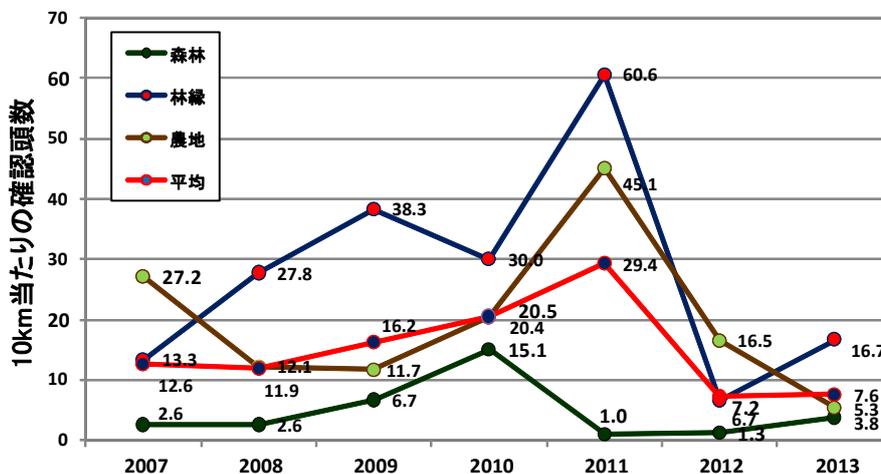
3 モニタリングの実施状況

平成19年度以降に実施された主な調査であるエゾシカライトセンサス、地表性甲虫類調査及び鳥類調査の結果について報告した。

① エゾシカライトセンサス

平成19年度から、エゾシカの生息密度を調べることを目的として、毎年一定のコース（森林コース、林縁コース及び農地コース）を日没後にスポットライトを照射してエゾシカの確認頭数をカウントし、10km当たりの頭数に換算して生息密度を把握した。

(平成19年度以降のエゾシカの生息密度)



② 地表性甲虫調査

オサムシ等の地表性甲虫類は、風倒等により攪乱が生じた場合、最も敏感に反応する種の一つで、植生の回復が進むにつれ、開放性の種が森林性の種へと変化することが知られている。このため、平成19年度から自然再生事業地及び隣接する広葉樹天然林においてオサムシ・ゴミムシ類を捕捉し、自然再生事業地における森林再生の指標となる種について調査を行って来た。

この結果、ツンベルグナガゴミムシ及びオクエゾクロナガオサムシの2種はそれぞれ天然林での出現率が100%及び97%で、確認個体数も多く、森林性指標種としての信頼度が高いものと考えられた。さらに調査を行っていく中で、エゾマルガタゴミムシも天然林での出現率は98%で確認個体数も多く、雷別地区では指標性が高い可能性があることが分かり、今後、指標種として追加を検討することとした。

一方、キンナガゴミムシは、確認個体数は比較的少なかったが、ササ地での出現率は85%と高く、非森林性指標種としての信頼性は比較的高いものと考えられた。さらに、当初、指標種として注目していなかったアオゴミムシのササ地での出現率が99%で確認個体数も多く、雷別地区では指標性が高い可能性があることが分かり、今後、指標種として追加を検討することとした。

(森林性指標種の検討：地表性甲虫調査)

| 生息環境区分 | 指標種 | 動態予測 | | 事業地での確認個体数 | | | 天然全体での確認個体数 | | | 事業地天然林2か年合計の確認個体数 | 天然林での出現率※ | 指標性 |
|--------|--------------|-------------------|----|------------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------------------|-----------|------|
| | | 現在 | 将来 | H22 | H23 | 事業地合計 | H22 | H23 | 天然林合計 | | | |
| | | 笹地 → 疎林 → 樹林地 | | 事業地全体 | 事業地全体 | 事業地合計 | 天然林全体 | 天然林全体 | 天然林合計 | | | |
| 森林性 | ツンベルグナガゴミムシ | 安定した森林環境に出現 | | 0 | 0 | 0 | 35 | 21 | 56 | 56 | 100% | 高 |
| | エゾマルガタナガゴミムシ | 安定した森林環境に出現 | | 2 | 2 | 4 | 112 | 106 | 218 | 222 | 98% | 高 |
| | オクエゾクロナガオサムシ | 安定した森林環境に出現 | | 2 | 2 | 4 | 79 | 40 | 119 | 123 | 97% | 高 |
| | ヒメクロオサムシ | 立木密度が高くなると増加する | | 23 | 14 | 37 | 183 | 28 | 211 | 248 | 85% | やや高い |

注1:天然林での出現率=(天然林合計/2か年合計個体数)×100

注2:赤字は、今後、森林再生の指標種として追加の検討が必要と思われる種

(非森林性指標種の検討：地表性甲虫調査)

| 生息環境区分 | 指標種 | 動態予測 | | 事業地での確認個体数 | | | 天然全体での確認個体数 | | | 事業地天然林2か年合計の確認個体数 | 事業地での出現率※ | 指標性 |
|--------|--------------|-------------------|----|------------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------------------|-----------|------|
| | | 現在 | 将来 | H22 | H23 | 事業地合計 | H22 | H23 | 天然林合計 | | | |
| | | 笹地 → 疎林 → 樹林地 | | 事業地全体 | 事業地全体 | 事業地合計 | 天然林全体 | 天然林全体 | 天然林合計 | | | |
| 非森林性 | アオゴミムシ | 木本や林床植生が発達すると消滅 | | 26 | 83 | 109 | 0 | 1 | 1 | 110 | 99% | 高 |
| | キンナガゴミムシ | 木本や林床植生が発達すると消滅 | | 10 | 29 | 39 | 0 | 7 | 7 | 46 | 85% | やや高い |
| | コガシラナガゴミムシ | 立木密度が高くなると減少 | | 24 | 47 | 71 | 8 | 11 | 19 | 90 | 79% | やや高い |
| | コブスジアカガネオサムシ | 立木密度が高くなると減少 | | 39 | 69 | 108 | 20 | 16 | 36 | 144 | 75% | やや高い |

注1:事業地での出現率=(事業地合計/2か年合計個体数)×100

注2:赤字は、今後、森林再生の指標種として追加の検討が必要と思われる種

③ 鳥類調査

本調査は、平成19年度及び平成23年度に同一箇所で行われたが、実施時期が異なり、調査結果の比較はできなかった。また、鳥類の行動範囲を考えると極めて狭い範囲での調査であり、偶然的確認の要素が高いため、今後、このような狭い土地における鳥類調査の結果が植生変化の指標となるのか検討することとし、当面、調査は見合わせることにした。

4 補植計画

人工植栽した苗木は、エゾシカによる食害及びエロージョン発生による流失により生存率が13%と極めて低いこと、天然更新が不成績に終わったことから、森林再生小委員会で次の内容を骨子とする補植計画案を示した。

① 補植の対象区画

地表処理を行った全86区画で補植（厳密には、国有林野事業では、天然更新が不成績な箇所でも苗木を補完的に植栽することを「植込み」というが、本稿においては便宜上「補植」で統一する。）を行うこととする。

② 植栽木の間隔

2.0m以上とするが、地表処理区画の形状に応じて植栽間隔を調整（例えば、植栽列が3列以上となる場合は間隔を広げる。）。

③ 補植の進め方

- ・補植を行う前に防鹿柵を設置
- ・補植は多くの区画でエロージョンの発生が収まった段階で実施
- ・苗木業者の在庫状況を確認のうえ、請負により、極力、全区画を一括発注

④ その他付記すべき事項

- ・原則的に補植後に下刈を行わないが、被圧により苗木の成長に影響を与えるものと認められた場合に限り、苗木の周辺のみを下刈りする「坪刈り」を実施
- ・「坪刈り」の実施に際しては、生存木や天然生稚樹を残すよう配慮
- ・人工植栽区域に区分されたが傾斜や切り株などにより地ごしらえができなかった箇所は防鹿柵を設置のうえ天然力により更新

5 森林再生小委員会における委員からの主な意見

- ① 条件に適合した（雷別地区由来の）苗木を必要な時に必要な本数分購入できる仕組みを考えて頂きたい。
- ② 防鹿柵設置後は柵外の樹木へ影響を及ぼすおそれがあるので注意が必要。
- ③ エゾシカライトセンサスは信頼性に乏しい。食害調査の方が有効。
- ④ エロージョン対策は粗朶束（そだたば）の設置が有効であったので参考に。
- ⑤ 人工植栽木の生育の良否を判断する基準を定める必要がある。
- ⑥ 補植に当たり、植栽密度の根拠を明確にすべき。

6 委員からの意見への対応

森林再生小委員会における各委員からの意見を踏まえ、今後、以下の項目について取り組む。

- ① 法令等を遵守し、かつ、条件に適合した苗木の確保に向けた検討
- ② 防鹿柵の設置による周囲の森林に与える影響調査の実施
- ③ エゾシカライトセンサスに代わる信頼性の高いエゾシカ生息状況の調査手法の検討
- ④ エロージョン対策として粗朶束による土留めの効果の検証（実施事例の調査及び試験的設置）
- ⑤ 文献調査や広葉樹植栽地の現地調査を通じた人工植栽木の生育の良否を判定する基準の設定
- ⑥ 科学的知見に基づいた補植密度の決定

（最後に）

実施計画策定後5年間、釧路地方の国有林では事例の極めて少ない広葉樹の人工造林、また、母樹が少ない中での天然更新に取り組んで参りました。広葉樹の植樹に当たりましては、多くのボランティアの皆様方のご理解とご協力を賜り、これまで約3,500本を植栽して頂きました。しかしながら、主に激しいエゾシカによる食害により植栽した多くの苗木が失われる結果となり、貴重な時間を割き、汗水を流して植樹をして頂いた皆様には大変申し訳なく存じます。当センターと致しましては、実施計画策定後5年が経過したことを節目として、事業実施上の問題点を徹底的に抽出し、その対策も合わせて森林再生小委員会の場で報告し、学識経験者等からの意見を聴き、これに沿って必要な調査、検討及び対策を行って参る次第です。本事業では、先ず、エゾシカによる食害という森林の再生に当たっての最大の阻害要因を防鹿柵の設置という方法で排除致します。そして、これまでの事業実施を通じて得られた教訓を踏み台にし、皆様が割いた時間と流した汗を無に帰さぬよう、着実に森林の再生に向かって前進させていく考えです。

本稿は、「釧路湿原自然再生全体構想」における「情報公開の原則」（情報の公開と説明を十分に行ない、市民が主体的に関われるようにする）に基づき、森林再生小委員会を傍聴出来なかった皆様に雷別地区自然再生事業の実施主体である当センターが委員会で報告した内容とこれに対して委員から頂いた主な意見を本紙面を通じて公開するものです。

2 この1年間の取組み

ー 取組みの経過

- 25年 4月23日(火) 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会 再生普及行動計画WG
5月5～6日 ゴールデンウィークイベントで木工教室等を実施(釧路市こども遊学館)
7～27日 野生生物自動撮影調査を実施(別寒辺牛国有林)
22日(水) 標茶町立中茶安別小中学校の学校林活動を支援(標茶町中茶安別)
6月8日(土) くしろエコ・フェア2013で木工教室等を実施(釧路市こども遊学館)
17日(月) シードトラップを設置(雷別自然再生事業地ーハルニレ)
19日(水) 第1回 雷別ドングリ倶楽部(中止)
7月1～22日 野生生物自動撮影調査(雷別自然再生事業地・パイロットフォレスト)
3日(水) 第1回 雷別ドングリ倶楽部自主活動(庁舎周辺)
10日(水) 第2回 雷別ドングリ倶楽部(中止)
17日(水) シードトラップの回収とタネの収集(雷別自然再生事業地ーハルニレ)
21日(日) 第1回 森林アクティビティ講座(雷別自然再生事業地)
8月2日(金) 夏休み親子森林体験ツアーを根釧西部署と共催(パイロットフォレスト)
4日(日) 夏休みイベントで木工教室等を実施(釧路市こども遊学館)
21日(水) 第2回 雷別ドングリ倶楽部自主活動(庁舎周辺)
22日(木) 標茶町立中茶安別小中学校の学校林活動を支援(標茶町中茶安別)
9月1日(日) 京都大学等の実習を支援(パイロットフォレスト)
2～27日 野生生物自動撮影調査(雷別自然再生事業地・パイロットフォレスト)
8日(日) 京都大学等の実習を支援(パイロットフォレスト)
13日(金) JICA視察を支援(パイロットフォレスト)
15日(日) カミング・パラダイス2013で木工教室を開催(白糠町)
17日(火) ボランティア植樹(台風により中止)
18日(水) 第2回 雷別ドングリ倶楽部(雷別自然再生事業地)
26日(木) きらっと23の会の森林利用活動を支援(パイロットフォレスト)
30日(月) JOFCA視察を支援(雷別・パイロットフォレスト)
10月6日(日) 第2回 森林アクティビティ講座(雷別自然再生事業地)
16日(水) 第3回 雷別ドングリ倶楽部自主活動(中止)
19日(土) 道民森づくりネットワークの集い(道庁赤れんが庁舎前)
22日(火) 釧路町立昆布森小学校の木工教室を支援(釧路町昆布森)
29日(火) 標茶町立久著呂小学校の森林教室を支援(パイロットフォレスト)
30日(水) 標茶町立中茶安別小中学校の学校林活動を支援(標茶町中茶安別)
31日(木) 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会 環境教育WG
11月3日(日) サイエンス屋台村で樹木の種子の散布方法を紹介(釧路市こども遊学館)
7日(木) 遊学の会の森林利用活動を支援(パイロットフォレスト)
9日(土) 木育・森づくりパネル展に出展(イオン釧路昭和店)
13日(水) 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会 再生普及行動計画WG
20日(水) 第4回 雷別ドングリ倶楽部(雷別自然再生事業地・パイロットフォレスト)
12月6日(金) 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会
12日(木) 釧路湿原自然再生協議会 第13回 森林再生小委員会
26年 1月30～31日 北の国・森林づくり技術交流発表会
2月5日(水) 釧路湿原自然再生協議会 普及再生小委員会 再生普及行動計画WG
10日(月) 釧路湿原自然再生協議会
19日(水) 第5回 雷別ドングリ倶楽部

一 自然再生・生物多様性の保全

① 4月23日(火) 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会 再生普及行動計画WG

② 5月7～27日 野生生物自動撮影調査

パイロットフォレスト及び別寒辺牛(べかんべうし)国有林で、アメリカミンクの生息状況を把握するため、自動撮影調査を実施しました。アメリカミンクは現れませんでした。エゾシカやタヌキが撮影されました。調査結果等の詳細は、こちらをご覧ください。

→ [平成25年5月7日～27日 アメリカミンクの生息調査を実施](#) (当ふれあいセンターHPへ移動します。)

③ 6月17日(月) シードトラップを設置

7月17日(水) シードトラップの回収とタネを収集

雷別地区自然再生事業地で、ハルニレのタネを収集するため、シードトラップを設置しました。

収集したタネは、自然乾燥した後、軽く揉んで脱粒させ、マルチキャビティコンテナへ播種する等、森林再生で植栽する苗木を育成するために使用します。



④ 7月1～22日 7月期 野生生物自動撮影調査

9月2～27日 9月期 野生生物自動撮影調査

雷別地区自然再生事業地及びパイロットフォレストで、自動撮影カメラを使用した野生動物生息調査を実施しました。この調査は、当該地区に生息するほ乳類等をモニタリングし、自然環境の状態を把握することを目的として、毎年2回(7月と9月)行っています。調査結果等の詳細は、こちらをご覧ください。

→ [釧路湿原森林ふれあい推進センター>業務内容>各種調査等>野生生物自動撮影調査](#) (当ふれあいセンターHPへ移動します。)

⑤ 7月3日(水) 第1回 雷別ドングリ倶楽部自主活動

8月21日(水) 第2回 雷別ドングリ倶楽部自主活動

今年度から、年3回「雷別ドングリ倶楽部」の活動の一環として、マルチキャビティコンテナで育成している、苗の除草や施肥等を行うこととなりました。手入れをしていただき、大きくなった苗は、雷別地区自然再生事業地へ植栽します。実施状況等の詳細は、こちらをご覧ください。

→ [平成25年8月21日 第2回目 雷別ドングリ倶楽部自主活動を実施](#) (当ふれあいセンターHPへ移動します。)

⑥ 7月21日(日) 第1回 森林アクティビティ講座を開催

雷別地区自然再生事業地で、ボランティアの参加を得て、樹木観察・カミネッコンの作成と山引き苗の植樹を実施しました。

カミネッコンは、根にダメージを与えず、簡単に植えるための方法として、北海道大学名誉教授の東三郎先生が考案された、一度聞くと忘れられない、ちょっと変わった名前の紙でできた育苗ポットです。



⑦ 9月18日(水) 第2回 雷別ドングリ倶楽部

雷別地区自然再生事業地で、会員14名の参加を得て、シードトラップの設置、植樹、ツリーシェルターの設置を行いました。

始めに、ミズナラとカシワのドングリを収集するため、シードトラップを3カ所、20枚設置しました。その後、笹地10へ移動し「お庭で苗木育成」にご参加いただいた方が、丹精込めて大きく育てて下さった、マルチキャビティコンテナのミズナラの苗木やヤチダモとハルニレの苗木、合わせて200本を立派な森林となるよう、願いを込めて植栽するとともに、エゾシカの食害に遭わないよう、ツリーシェルターを設置しました。



⑧ 10月6日(日) 第2回 森林アクティビティ講座

雷別地区自然再生事業地でボランティアの参加を得て、シードトラップの回収とタネの収集、ツリーシェルターの設置等を実施しました。

始めに、シードトラップの回収とドングリの収集を行ったところ、今年の結実は凶作のようでミズナラやカシワのドングリは少ない状況でしたが、カンバのタネが多く落ちていたことから、合わせて収集しました。その後、笹地14へ移動し、9月に雷別ドングリ倶楽部の会員が植樹した広葉樹へ、エゾシカの食害から苗木を守るため、ツリーシェルターを100本、設置しました。



* 第1回森林アクティビティ講座(7月21日開催)で、作成・植樹したカミネッコンが、防鹿柵内で元気に育っています。今後の成長が楽しみです。



▽ 作成の様子(7月21日)



▽ 7月21日の様子



▽ 10月6日の様子

- ⑨ 10月31日(木) 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会 環境教育WG
- ⑩ 11月13日(水) 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会 再生普及行動計画WG

⑪ 11月20日(水) 第4回 雷別ドングリ倶楽部



雷別地区自然再生事業地で、会員15名の参加を得て、ツリーシェルターの設置、枝打ち体験を行うとともに、過日の強風で傾いた、既設のツリーシェルターを補修しました。

始めに、ツリーシェルターの設置(75本)と補修を行いました。参加者が手際よく作業を進めていただいた結果、予定時間内に終了し、パイロットフォレストへ移動しました。昼食の後、アカエゾマツの枝打ち体験となりましたが、会員の皆さんが黙々と作業に取り組んだところ、14時過ぎには1日の日程を無事終了し、パイロットフォレストを後にしました。



⑫ 12月6日(金) 釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会

⑬ 12月12日(木) 釧路湿原自然再生協議会 第13回 森林再生小委員会

環境省が実施している「達古武地域自然再生事業」と併せて、P1の「1. トピック」で紹介した「雷別地区自然再生事業」の実施計画策定後5年間の事業実施内容の点検のほか、平成25年度の事業の実施状況について報告し、本協議会の構成員から意見を頂きました。

⑭ 2月10日(月) 第19回 釧路湿原自然再生協議会



(写真提供: 環境省釧路自然環境事務所)

前回の協議会開催以降に開かれた釧路湿原自然再生協議会の下に置かれている6小委員会での論議の内容が事務局から報告され、事業内容やモニタリング調査結果などについて協議会構成員を交えて活発な議論が展開されました。

なお、「釧路湿原自然再生全体構想」が来年3月で策定後10年が経過することとなり、見直しを行うこととされていることから、その作業を行うためのワーキンググループの立ち上げについての提案され、承認されました。

⑮ 2月19日(水) 第5回 雷別ドングリ倶楽部

来年度の実施内容と日程について打合せを行った後、毎年恒例となっている冬芽の観察会を当センター庁舎周辺で実施しました。

実施状況等の詳細は、こちらをご覧ください。

→ [平成26年2月19日 第5回 雷別ドングリ倶楽部を開催](#) (当ふれあいセンターHPへ移動します。)

「雷別ドングリ倶楽部」会員募集

「雷別ドングリ倶楽部」では、自然再生をボランティアで行う会員を随時、募集しています。年会費等は不要ですが、活動するに当たり、傷害保険へご加入いただくため、その費用が必要です。詳細は、当ふれあいセンターまで、お問合せ下さい。

－ 森林環境教育

① 5月5～6日 木のおもちゃで遊ぼう！

釧路市こども遊学館で、ゴールデンウィーク恒例のイベントが開催され、当ふれあいセンターでは、アイスクャンディーの握り棒を用いた「アイスの棒deクラフト」の木工教室を担当するとともに、マッチ箱程度の木片の積み木で遊ぶ「つみつき～で遊ぼう！」のコーナーを担当しました。

この2日間で、親子連れや子ども同士など、小学校低学年を中心に、約120名の参加があり、アイスの棒を接着させるのに苦労しながら、ミニチュアのテーブルや椅子など、思い思いの工作に挑戦していました。



② 5月22日（水）標茶町立中茶安別小中学校の学校林活動を支援

春の学校林活動が行われ、当ふれあいセンター職員と根釧西部森林管理署真竜森林事務所森林官、標茶森林事務所職員が、講師として参加しました。

今年度1回目の活動は、全校児童生徒26名が参加し、始めに、昨年の秋の活動で設置した積雪対策の支柱と野ネズミ対策の器具の撤去作業を全児童で行い、その後、小1～4年生と小5～中学生までのグループに分かれて、それぞれの活動を行いました。



③ 6月8日（土）くしろエコ・フェア2013



この催しは、環境月間の6月に開催されており、今年は24の団体・個人が、各種展示や実演などの様々な企画を用意し、市民との交流を深めました。

当ふれあいセンターでは、「森林からの贈り物でいろいろなものを作ろう！」と「つみつき～で遊ぼう！」のコーナーを担当し、森林や木に関心を持って頂く機会を提供しました。

④ 8月2日（金）夏休み親子森林体験ツアーを共催

パイロットフォレストで、公募で集まった親子27名の参加を得て「夏休み親子森林体験ツアー」を根釧西部森林管理署と共催し、当ふれあいセンターでは、松ぼっくりやドングリ等を材料とした「飾り炭」の作成を担当しました。

この日は、高性能林業機械が稼働している伐採現場の見学や木工教室等も行われ、最後に、焼き上がった「飾り炭」をプレゼントして1日のスケジュールを終え、皆満足なご様子でした。



⑤ 8月4日（日）親子木工教室

釧路市こども遊学館で、夏休み恒例のイベントが開催され、当ふれあいセンターでは「ウェルカムボード」作りを担当しました。

当日は、親子29名の参加があり、初めて使うノコギリに苦労しながら、木の輪切りや小枝、松ぼっくり等の自然素材を用いて、飾り付けを行いました。

終了予定時間前には、参加した親子全組が完成させ、工夫を凝らして作り上げた作品をを笑顔で持ち帰りました。



⑥ 8月22日（木）標茶町立中茶安別小中学校の学校林活動を支援

夏の学校林活動が行われ、当ふれあいセンター職員が講師として参加しました。

今回の学校林活動の実施に当たっては、年度当初の学校との打合せの際、学校林内にある池を題材とする環境教育を行ってほしいとの強い要望があり、森林の有する水源かん機能等の学習と併せて、外部講師を招き、池の水質調査を通して「水質とは何か？」や「水の大切さ」を学習しました。



⑦ 9月15日（日）カミング・パラダイス2013

この催しは、白糠町の商店街通り（ハミングロード）を閉鎖して実施され、当ふれあいセンターでは、積み木の「つみっき〜」を提供するとともに、「ウェルカムボード」と「フォトフレーム」を作る木工教室を開催しました。

当日は、白糠町のイベントに併せて、白糠町緑化推進委員会が行う木育事業に協力するため、釧路総合振興局森林室と当ふれあいセンターが、日替わりで、木育や森林環境教育に取り組みました。



⑧ 10月22日（火）釧路町立昆布森小学校の木工教室を支援



1・2年生の児童10名が参加して、北海道の郷土樹種であるトドマツの板を土台として、松ぼっくりや木の輪切り、小枝等を使用し、写真立てを作りました。

当初、子ども達は、どんな飾り付けにしようか、貼り付けるものは何にしようか、と悩んでいた様子でした。

だが、段々とアイデアが湧き出し、時間内に全員が作品を完成させることができました。完成した作品は、各自の名前をつけて廊下に展示されましたが、子ども達たちは、早く家に持ち帰りたい様子でした。

また、「楽しかった。」「上手にできた。」等の感想が子ども達から寄せられ、最後に作品を手に記念撮影をして、木工教室を終了しました。

⑨ 10月29日（火）標茶町立久著呂小学校の森林教室を支援

パイロットフォレストで、児童3名と引率の先生、当ふれあいセンターの職員2名で、森林教室を行いました。

始めに、森林で木が育つ様子から、使われ方までをパネルで説明したところ、子ども達から「木はどのように伐るのですか。」「ここには、何種類の木がありますか。」等の質問があり、ふれあいセンター職員が、丁寧に答えていました。次に、場所を移動して、自然の中に隠した人工物を探す「カモフラージュ」を行い、生き物の擬態や生きる知恵と工夫を学んでもらいました。また「フィールドビンゴ」では、自由に森林の中を歩き回り、いろいろな発見をしてもらいました。



⑩ 10月30日（水）標茶町立中茶安別小中学校の学校林活動を支援



秋の学校林活動が実施され、当ふれあいセンターからは、職員4名が講師として参加しました。

開会式の後、実のなる木が、ネズミの食害に遭わないよう、根元にペットボトルを設置するとともに、雪の重みに耐えられるよう、

竹の支柱を設置しました。次に、鳥の巣箱の利用状況を確認しながら清掃を行ったところ、二つに利用した痕があり、さらに孵化していない卵も発見したことから、子ども達からは、驚きの声が上がっていました。

最後に、樹木に関する問題を解きながら散策する「クイズウォーク」を行いました。樹木の葉や実が落ちてしまい、一部、難しい設問となりましたが、中学生がまとめ役となり、木の周りや地面を熱心に観察しながら、問題を解いていました。

－ N P O等・その他の取組み

① 9月1日(日) 京都大学等の実習を支援

9月8日(日) 京都大学等の実習を支援

京都大学農学研究科 森林・林業政策学等の教官及び生徒が、国有林における湿原の保全管理の実態と周辺の森林資源管理の状況を見学するため、パイロットフォレストを訪れました。

② 9月13日(金) J I C A視察を支援

③ 9月26日(木) きらっと23の会の森林利用活動を支援



パイロットフォレストで、森林散策と望楼からの眺望、飾り炭の作成、ミズナラの巨木の見学を行いたいとの要望があり、当ふれあいセンターがサポートしました。

森林散策では「空気が澄んでいて、とても気持ちが良い。」との感想が寄せられるとともに、望楼から見る雄大な森林の風景には、とても感動していただきました。また、松ぼっくりや栗のイガ等で作った飾り炭の焼き上がりにも、大変喜んでいただきました。最後に、「森の巨人たち百選」に選ばれている標茶のミズナラの見学には、その大きさに、皆さん圧倒された様子でした。また、思いがけず、巨木を走り回るシマリスの出現には「かわいいー。」と連呼されていました。

④ 9月30日(月) J O F C A視察を支援

⑤ 10月19日(土) 道民森づくりネットワークの集い

この催しは、森づくりネットワークの強化・拡大と道民の森づくり活動への参加を促進するため、道民の自発的な森づくり活動の中心となる森林ボランティア団体・企業などが一会場に集い、森づくりに関する様々な情報発信や意見交換などを行うことにより、道民と交流を図ることを目的として開催されており、当ふれあいセンターからは、「デジタル顕微鏡での観察」と「パネル展示」のブースを出展しました。



⑥ 11月3日(日) サイエンス屋台村



この催しは、科学教育者等が、実験を通じて青少年に、科学のおもしろさを知ってもらうことを目的として、小学校をはじめとして、中・高・大学等の教育機関や官公庁、N P O法人など、18の団体が33の演題を設け、物理・科学の実験や体験教室が行われました。

当ふれあいセンターは、電子映像拡大鏡を用いて、アクリル封入された稚樹や葉、種子等を観察するブースを出展し、そこに映し出された、種子の特徴やその散布の方法を説明しました。参加者の中には、説明を一つ一つ漏らさずに、一生懸命にメモを取る子どもがいるなど、植物の種子散布の知恵を学んでいただくことができました。また、室外からコケ、地衣類、松の葉等を持ってきて観察する親子もおり、拡大映像に驚きの声を上げながら見入っていました。

⑦ 11月9日(土) 木育・森づくりパネル展



くしろ森と緑の会が、釧路地域の森づくりや緑化活動を知ってもらうことを目的として、イオン釧路昭和店のコンサート広場で開催したもので、当ふれあいセンターでは、根釧西部森林管理署とともに、「木とのふれあい体験コーナー」に参加し、パネル展示と併せて、松ぼっくりを使ったミニツリー作りに、多くの皆さんに参加していただきました。

また、この2日間、「木とのふれあいコーナー」では、本立て作り・置台作り・木の葉のしおり作り・木のマグネット作り等を行えるブースが設けられるとともに、「木育ひろば」では、木の球のプールや様々な木製遊具の遊び場等が設けられ、多くの家族連れで賑わっていました。

⑧ 11月7日(木) 遊学の会の森林利用活動を支援



パイロットフォレストで、松ぼっくりを用いた工作と望楼からの眺望、ミズナラ巨木の見学を行いたいとの要望があり、当ふれあいセンターがサポートしました。

松ぼっくりの工作では、皆さんが工夫を凝らして、ミニクリスマスツリーやかわいい置物等を作り上げていました。また、午後から

の望楼見学では、黄金色に染まったカラマツ林のパノラマを堪能していただきました。

最後に、場所を移動して「森の巨人たち百選」に選ばれた、標茶のミズナラを見学したところ、参加者一同、その大きさに圧倒された様子でした。

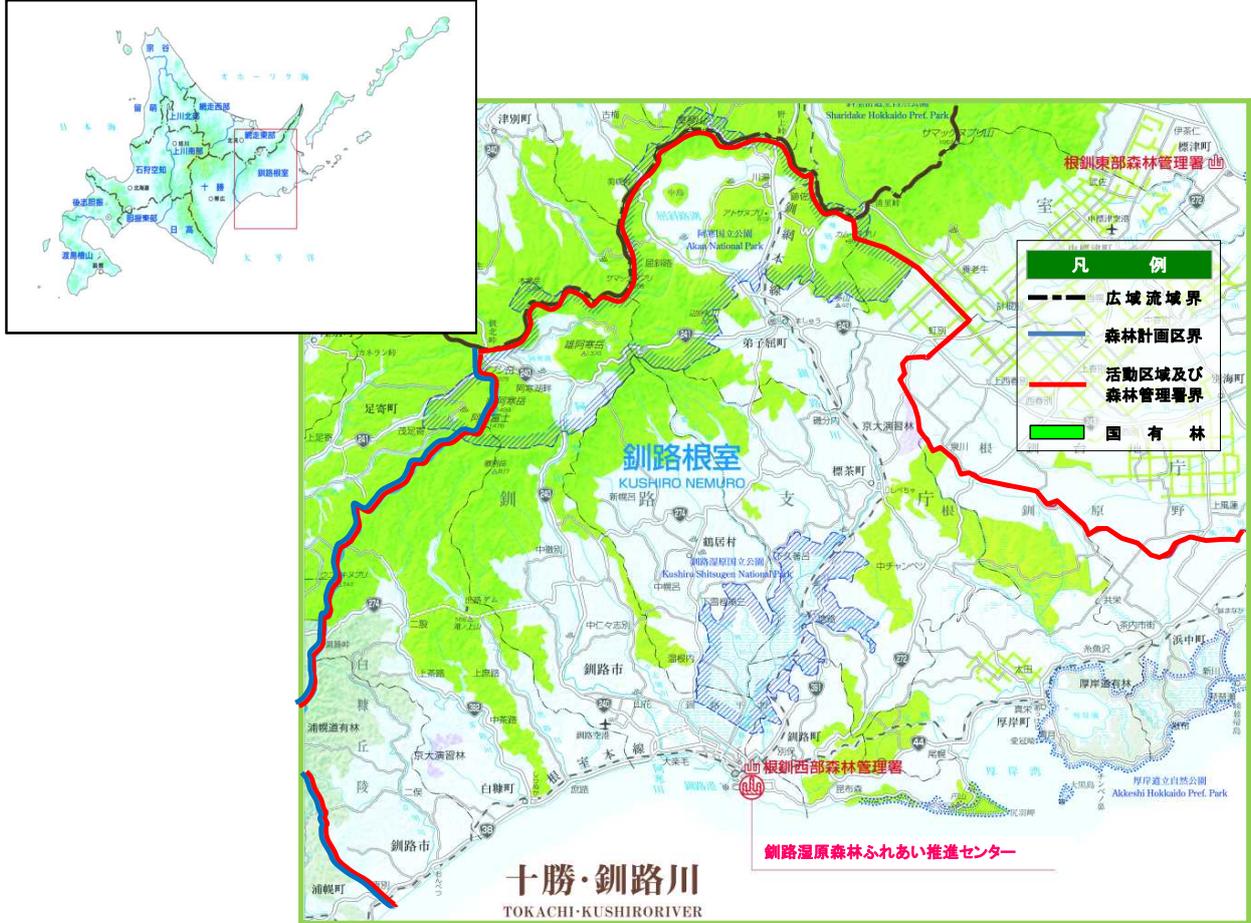
⑨ 1月30～31日 北の国・森林づくり技術交流発表会

「組織のプレゼンスの向上を目指して ～ホームページを活用して～」と題して、当センターの存在感を高めるために、ホームページの1コーナーを活用し、掲載内容に工夫を凝らした取り組みについて発表しました。

「育苗ボランティア」募集

森林再生活動で植樹する広葉樹の苗木を育てていただく、「お庭で苗木育成」のボランティアを募集しています。釧路市及びその近郊にお住まいの方で、自宅の庭で3年程度、育てていただくこととなります。詳細は、当ふれあいセンターまで、お問合せ下さい。

3 活動区域及び所在地



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図釧路(釧路)を使用したものです。

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【IP】050-3160-5787 【TEL】0154-44-0533

【FAX】0154-41-7305

【E-Mail】h_kushiro_f@rinya.maff.go.jp

【URL】http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html